

第1回 大阪移行期医療 研修会 報告

「大阪における先天性心疾患の移行期医療を考える！」

研修会を通じた成人診療科との仲間作り

活動メンバー

大阪府移行期医療推進会議委員

小児科：大藁恵一 白石公 石崎優子

鈴木保宏、原純一 烏邊泰久

内科：中尾正俊 花房俊昭、藤原靖弘

看護：長田暁子、

保健所（長）：高林弘の

支援センター： 位田忍

大阪母子医療センター

移行期医療支援検討部会

医師：鈴木保宏、高橋邦彦

看護師：田家由美子、

江口奈美、吉武和代

MSW：上田美香

臨床心理士：山本悦代

移行期医療支援センター

植田麻実、位田忍

大阪府委託事業

第1回 大阪移行期医療研修会

「大阪における先天性心疾患患者の移行期医療を考える！」

日時：2021年3月12日（金）17:30～19:30



開催方法：web 開催（事前登録制*）zoom webinar 使用

事前登録用 URL：https://zoom.us/webinar/register/WN_40vqXY46RUSwQhYLuoHRSQ

*登録専用 QR コードまたは事前登録用 URL より事前登録してください。今日は、医療関係者のみの参加とさせていただきますので、ご了承下さい。登録が完了された方には、当日参加用 URL を後日送信させていただきます。

なお、登録されていない方との URL の共有はご遠慮くださいますよう、お願いいたします。

参加費：無料

申込期日：3月5日（金）正午

“子ども”から“大人”へとライフステージが変化していく中で、必要な医療支援・自立支援も変わっていく患者に対し、生涯に渡り適切な医療を受け続けることが出来るよう、また、病気を持っても社会の中でその人らしく生きることが出来るようになるには何が必要か、みんなで考えましょう。

PROGRAM

- ① 先天性心疾患の学術講演 成人先天性心疾患患者の現状
国立循環器病研究センター 教育推進部 部長 白石 公
- ② 移行期医療についてと移行期医療支援センターの活動とアンケート結果
大阪母子医療センター 移行期医療支援センター センター長 位田 忍
- ③ 移行支援の実際
 - (1) 小児診療科から考える移行期医療
大阪母子医療センター 小児循環器科 主任部長 重谷 太
大阪市立総合医療センター 小児循環器内科 部長 江原 英治
 - (2) 移行期外来での実践（自立支援の実際）
国立循環器病研究センター 副看護部長 小児看護専門看護師 笹川 みちる
大阪母子医療センター 副看護部長 小児看護専門看護師 吉田 佳織
 - (3) 成人診療科から考える移行支援の実際
大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 特任助教 塚本 泰正
- ④ ディスカッション

主催：大阪府移行期医療支援センター

後援：大阪府医師会 大阪小児科医会 大阪府看護協会

事務局：大阪府移行期医療支援センター（大阪母子医療センター 患者支援センター内）

TEL：0725-55-3113 E-mail：ikoukishien@wch.apho.jp HP：<https://ikoukishien.com/>



第1回 大阪移行期医療研修会 報告

2021年3月12日（金） 17：30～19：30

時間	タイトル	担当者
17:30～17:33	開会 挨拶	大阪府難病医療推進会議 座長 大阪府移行期医療推進会議 座長 大阪大学大学院 情報総合医学小児科学 教授 大藪 恵一
17:33～17:43	小児期発症慢性疾患の移行期医療 -子どものから大人への懸け橋を目指して-	大阪母子医療センター 臨床検査科 主任部長 大阪府移行期医療支援センター センター長 位田 忍
17:43～18:00	成人先天性心疾患の診療体制の確立に向けて -学会および研究班の取り組み-	国立循環器病研究センター 教育推進部 部長 白石 公
18:00～18:17	純粋なこども病院における ACHD診療の現状と移行の問題点	大阪母子医療センター 小児循環器科 主任部長 萱谷 太
18:17～18:34	大阪市立総合医療センターにおける ACHD診療の取り組みと課題 -地域中核総合病院内の小児病院として-	大阪市立総合医療センター 小児循環器内科 部長 江原 英治
18:34～18:49	移行期外来での実践 (自律・自立支援の実際)	国立循環器病研究センター 副看護師長 小児看護専門看護師 笹川 みちる
18:49～19:04		大阪母子医療センター 副看護師長 小児看護専門看護師 吉田 香織
19:04～19:21	大阪大学循環器内科における 移行期医療の現状	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 特任教授 塚本 泰正
19:21～19:31	ディスカッション 「いつどのように伝えるか」	司会:大阪母子医療センター 臨床検査科 主任部長 大阪府移行期医療支援センター センター長 位田 忍 国立循環器病研究センター 教育推進部 部長 白石 公
19:31～19:35	閉会 挨拶	国立循環器病研究センター 教育推進部 部長 白石 公

• 宣伝方法

大阪府医師会：

府医ニュース掲載

大阪小児科医会：

ISOP × 2回

開催2週前、1週前のmini ISOP

大阪府看護協会：

プログラムの配布 × 1110枚

大阪府移行期医療支援センター

大阪府内の循環器内科・血管外科
を有する医療機関の科長宛に郵送

• 開催方法

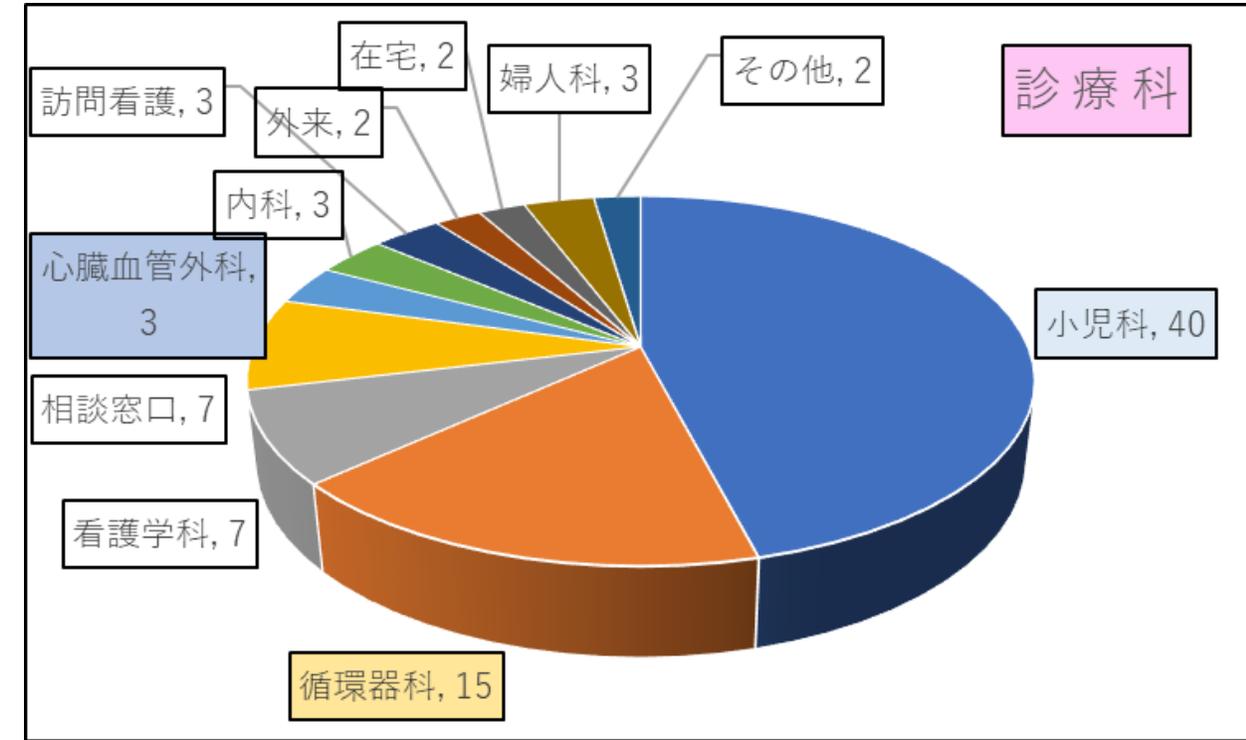
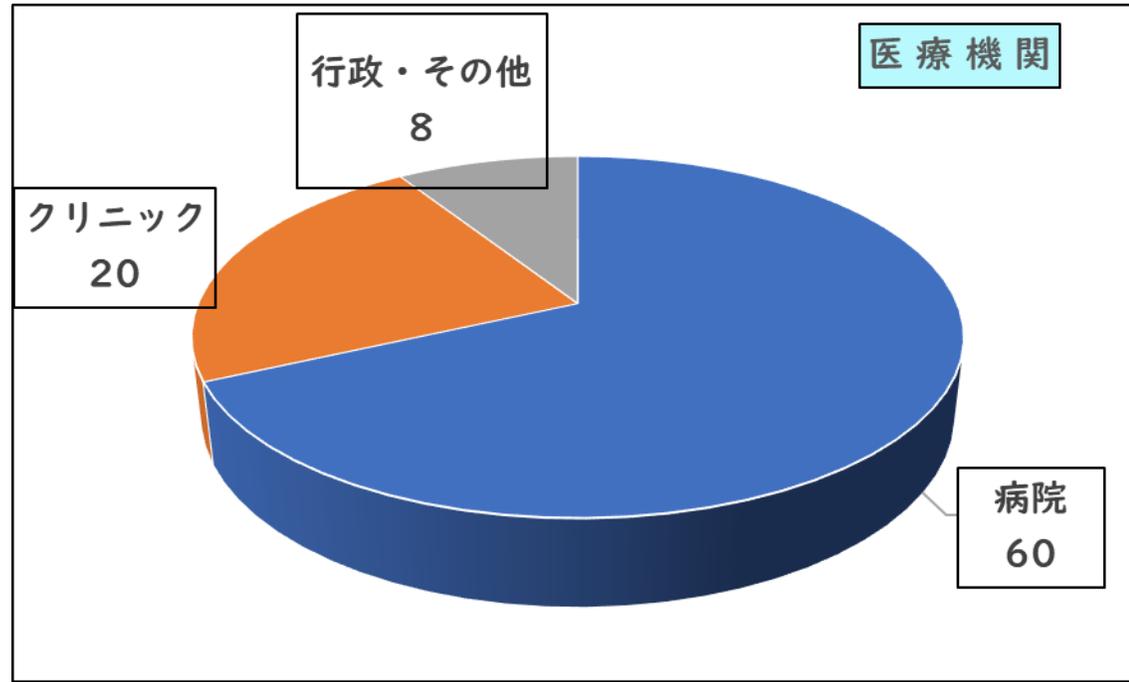
Web形式

• 事前登録者：120名

• 当日参加者：88名

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

参加者：88名



病院勤務の方が大部分を占めた。

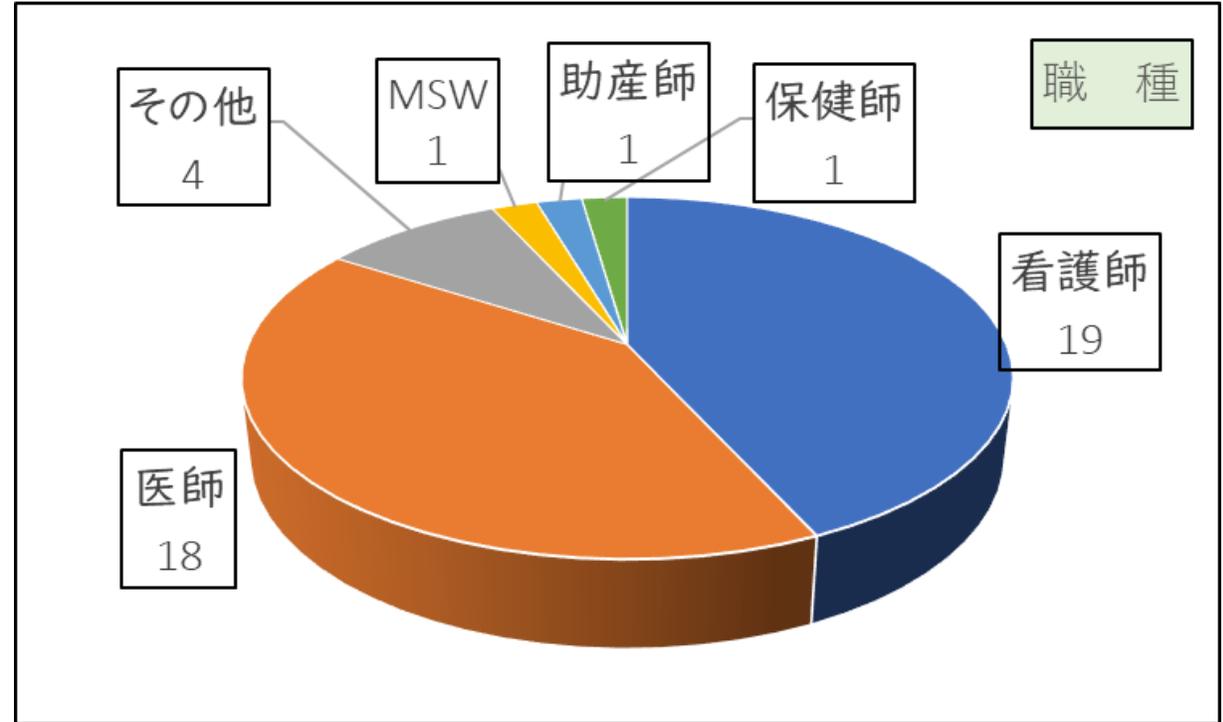
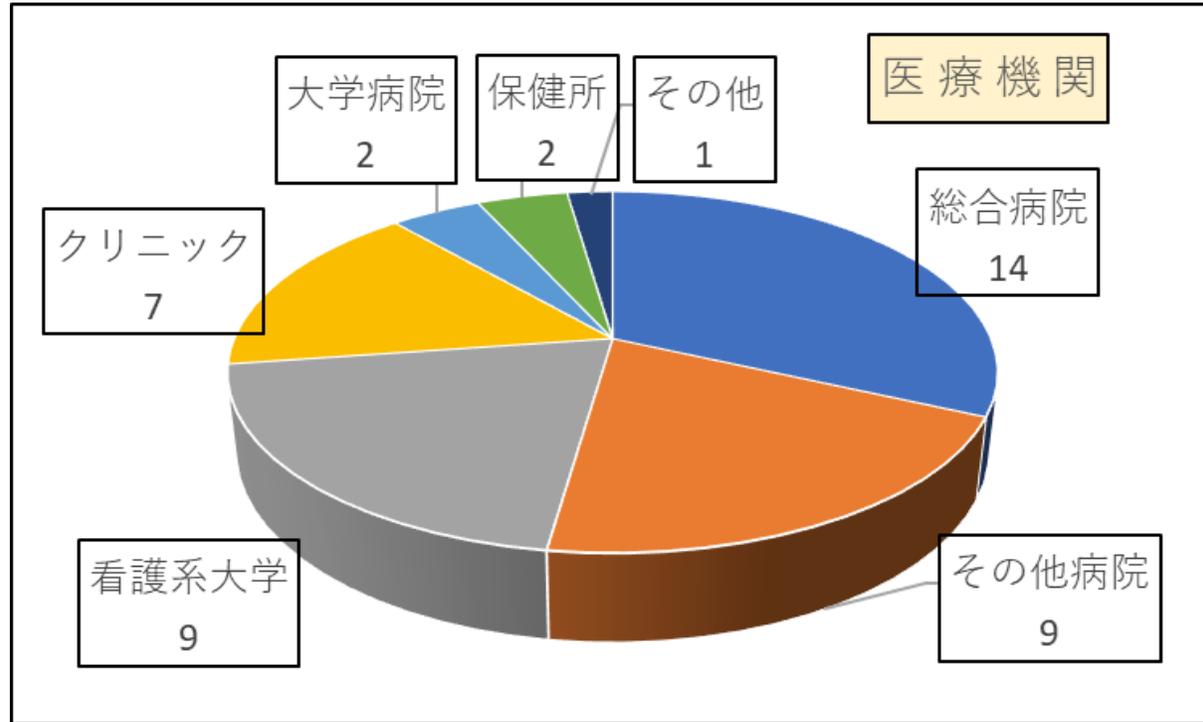
今回は、病病連携をメインにした研修会であったので、金曜日の17：30～という時間で開催。

しかし、多くのクリニックからの参加も20名おられた。

診療科（全職種）は、小児診療科が大半を占めたが、成人診療科からも24名の参加があった。（循環器科，心臓血管外科，内科，婦人科）

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 速報 (2021.03.17現在) 回答数 37



第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

1. イントロダクション（位田先生，白石先生）の内容について

参考になった	25
とても参考になった	18
あまり参考にならなかった	1

ご意見・ご感想

ライフステージに応じた移行支援の図が大変分かりやすく、支援のタイミングを意識しながら多職種と連携していきたいと思いました。

移行期医療の捉え方、関連学会の取り組みの全体像が理解できた。

移行期医療支援センターのアンケート結果等、現状調査の結果について大変参考になりました。
また、母子センターの自律・自立支援についてわかりやすく理解できました。

現状が理解できた

循環器内科医としての先天性心疾患に対する経験と知識の不足を認識した。

総論と、この会の目的がわかりました。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

2. 小児診療科側からみた移行期医療（萱谷先生，江原先生）の内容について

とても参考になった	24
参考になった	20

ご意見・ご感想

現状の報告、お考えになっていることが伝わりました。

先天性心疾患の移行期医療の問題や課題について、症例も交えての説明があり大変分かりやすかったです。

大阪の小児診療科の診療、連携の現状がよく理解できた。

難しさが伝わってきた

複雑心奇形児の生存率が高まる一方，少子化になるのであれば，ムリに（成人診療科に新たな境地を学習してもらおう）トランスファーを推進せずに，小児科医が成人診療を学ぶようにすれば良いのではないかという気もしてきました

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

2. 小児診療科側からみた移行期医療（萱谷先生，江原先生）の内容について

とても参考になった	24
参考になった	20

ご意見・ご感想

CHDの移行支援については、各医療機関の特徴を踏まえたお話（ケース）が大変勉強になりました。今後、ACHD専従医が欠かせなくなることが改めて強く認識しました。

移行医療は本当に緒についたばかり。これからです。意識は高まっていると思います。

一般病院では移行期心疾患に触れる機会がないため、このような講演で知識を得られるのは貴重な機会だと思います。循環器内科医の移行期医療に対する認識を広めるために循環器内科専門医の必須の研修内容として小児循環器での研修もプログラムに取り入れるべきかもしれません。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

3. 看護の側からみた移行期医療（笹川看護師，吉田看護師）の内容について

とても参考になった	26
参考になった	18

ご意見・ご感想

お二人とも医師の意見よりもより患者および患者家族に寄り添った現実的な問題とそれに対するとり組みがよく伝わってきたので大変有用でした。

どのように対応していけばよいのかがよくわかりました。

移行期医療で大事にする点、幼少期からの関わりが重要な点が良く理解できた。

移行期外来での具体的な内容が大変学びとなりました。本人のみならず家族への関わりも大変重要なので、早期からの関わりが必要であると思います。

看護の難しさがわかった

看護実践の姿勢が伝わりました。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

3. 看護の側からみた移行期医療（笹川看護師，吉田看護師）の内容について

とても参考になった	26
参考になった	18

ご意見・ご感想

医師だけでなく、看護師の立場からの取組について、詳しく知ることが出来た。

介入のタイミングや家族環境によって返ってくる回答も変わるので、その中でのいろいろな気持ちを汲み取っていただいているのだと改めて感じました。

学生に講義するうえで参考になりました。

興味深く拝見しました。移行期対象となる患者さんに直接関わることは多くはないですが、アプローチできることがあると分かりました。

先天性心疾患の子供の心理は成人心疾患の心理に比べるとはるかに繊細で別次元のものと感じました。医者だけの力ではどうにもならない、むしろ看護師、心理カウンセラーなど成人循環器疾患に対する多職種+αのケアが必要で成人心疾患の医療がいかに楽であるかを痛感させられました。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

4. 成人診療科側からみた移行期医療（塚本先生）の内容について

とても参考になった	26
参考になった	18

ご意見・ご感想

患者の移行の難しさについて

失礼ながら教授や医局の後押しという点では、身近なお子様にとって幸いに働いたと思いますが、やはりニッチなエリアだなという印象を抱きました。

循環器内科も細分化されていて自分の専門の虚血以外には心不全、不整脈、弁膜症の一般的知識しかなく、普段触れることがない移行期医療についての知識はゼロに近いので勉強になりました。

小児医療の特徴、課題を端的に示していただき、今後強化すべき点を考えることができた。

他院も阪大同様に、科長等の先生方の理解により、循環器内科への移行をより進めていければいいと思います。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

5. 今後、移行期医療研修会で取り上げて欲しいテーマ

AYA世代のかたがたが人生の選択で転居や留学等をされるときに、生活支援を成人診療科に移さざるを得ないのか、小児科医がどこまで人生の支援に責任を持って関われるか、ある意味、縦断的総合診療のプラクティカルを学ぶ場があるのでしょうか？

クリニック（かかりつけ医）がどうやってどこまで「移行期医療」にかかわれるのか、難しいです。特に心疾患については「生きてさえいれば」と何もさせてもらえず甘やかされた児、「心臓に病気があるのでクリニックでは特別扱いしてほしい」と願う親が多いです。ワクチンや一般感冒等で少しずつ話をしながらも、心臓の主治医ではないのでアクションしにくく、とてももどかしく思っています。

診療報酬がつかない割に、診療者の経験値、他職種協働、あるいは複数医療機関の連携が必要になってくる。できる限りをボランティア精神でやっているには続かない、発展しないので、必ず必要なこととして、なんらかの診療報酬をつけていくべきだと思います。

病態が安定しているときは当院でも診療可能ですが、他の病態が合併した時に、当循環器内科も、その病態を治療する当院の他科の先生方も、ちょっと敷居が高くなるのが現状です。

時間がかかる。寿命、発達障害などに関して深い内容への質問が及ぶ事があり、回答に難渋することがある

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

6. 移行期医療に関する困り事

レスパイト入院など

移行期医療の進め方。今回看護師からの具体的な話し方、介入方法がすごく参考になりました。具体例まじえたお話しけると嬉しいです。

医療的ケア児の移行期医療について

一方で、小生が神経分野においてトランスファーを勧めるよりも、成人分野について、もっと神経内科の先生方と共同して勉強すべきではないかという思いを強く致しました。

自律・自立支援の具体的なケースを教えてください嬉しいです。

小児科医師への教育

カウンターパートへの情報発信

先天性心疾患を見慣れていない循環器内科医が移行期医療症例を診療のするためのポイント、移行期医療で比較的多い症例について認識しておくべきこと、移行期医療について最低限これだけは知っておいてほしいなど

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

7. 移行期医療研修会全体への意見・感想 (1)

イントロとしてよかった

オンライン開催でも質疑応答を加えて頂いたので、考え方を整理するのに役立った。

チャットの使い方が今一つわかりにくかったです。

とても良い研修会でした。先天性心疾患の方の移行期医療の現状と課題がよくわかりました。

開始時間、開催時間が微妙で、参加されない方が多かったです。8時まで病院に滞在して参加することを良しとするのも気が引けるし、5時半には帰宅して参加してもらうのもかなり難しい。内容に興味を持って参加される方はある程度経験値、立場がある方になるので、

貴重な機会をありがとうございました。移行期支援は、今、システムを確立しているところですので、参考にさせていただきたいと思います。

具体的な支援内容について知りたいです。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

7. 移行期医療研修会全体への意見・感想 (2)

今回の学びを私たちの今後の活動にどのように生かすことができるか考えたいと思います。有難うございました。

今回の研修会でご提示されたような複雑心奇形などは、とても難しい症例ばかりで、患者・家族のみならず、担当医も移行させられないだろうなと感じました。地域医療を担う者として、何かお役に立てることがないだろうかと思って勉強させていただいておりますが、自分ではとても知識も経験も不足過ぎると実感しております。

今後もつけてほしい。思春期の子への介入方法に関してもききたい。生理不順、妊娠など。

時間がタイトであったため、もう少しディスカッションできるようにもう少し余裕のある時間配分にしていただけると良いかと思います。今回の研修のスライド資料について、可能であれば配信して頂けると有り難いです（途中、こちらのPCの具合で音声が届きとれなくなったため内容を一部把握できていないため）

出来れば週末の開催を希望したいです。また、後でもう一度見返す機能はあるのでしょうか？zoomが初めてでよく分かりませんでした

小児診療科側、及び成人診療科側それぞれの思いや考えを聞くことが出来、改めて知るところも多くあった。最後のディスカッションでも取り上げられていたが、やはり、患者本人への病状説明のタイミング、また患者本人だけでなく親への説明対応の仕方についても、多くの取組をなされている中で、難しいところが多いことが大変よく分かった。

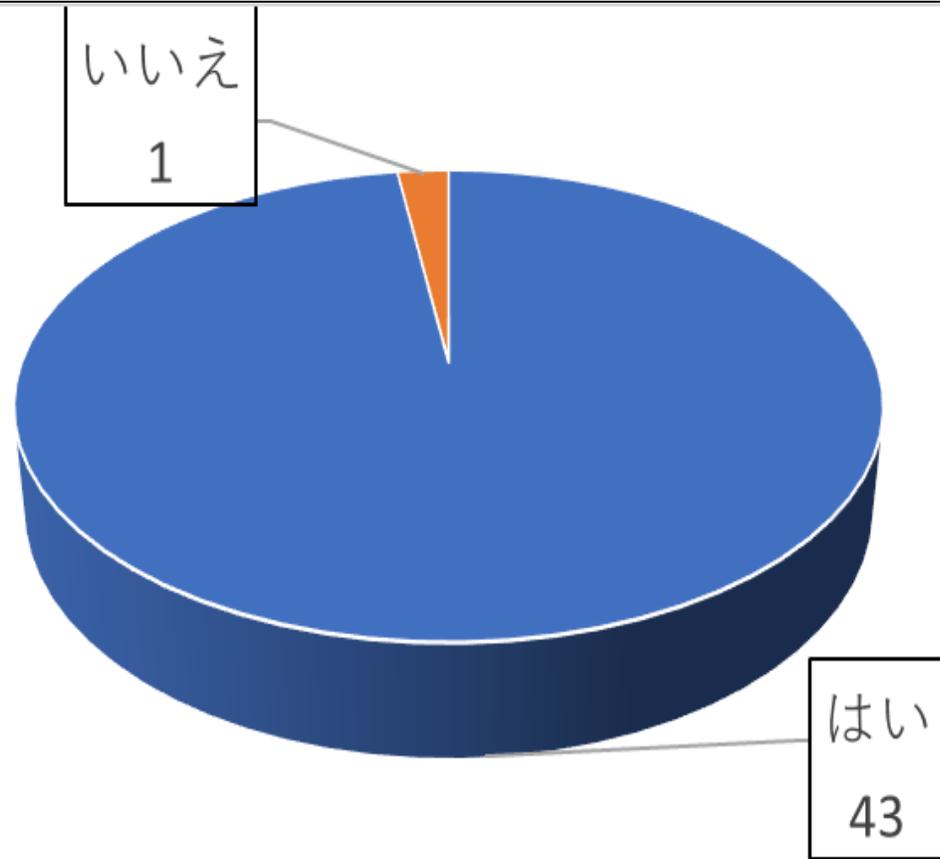
成人心不全は2025年にパンデミックになると言われていますが、移行期医療も診れる医者の数からするとパンデミックになることを循環器内科医が認識し、最低限の知識を共有できる機会として重要と思われます。

非常に大事なテーマとおもいます。

第1回 大阪移行期医療研修会 報告

研修会終了後アンケート 回答数 44

8. 次回以降も大阪移行期医療研修会に参加したいか



次回、5月15日（土）15：00～17：00に行う第2回大阪移行期医療研修会「大阪における成人ダウン症患者の移行期医療を考える！」にも、今回の研修会に参加してくださった方々が何名か事前登録をしてくださっています。